



Chartered April 11, 1998

THE Y'S MEN'S CLUB OF ASHIYA

President : Yasuo Ueno Address: 〒659-0074 2-8-304 Hirata-cho, Ashiya, Japan
Mail : uenoashiya@kbd.biglobe.ne.jp
URL : http://www.kobeymca.org/kobe_ymca/ys/ashiya.html

主 題

- 国際協会会長 Ulrik Lauridesen (デンマーク)
"Let Your Light Shine" 「輝かそう、あなたの光を」
アジア太平洋地域会長 利根川恵子 (東日本)
"Be the light for change" 「変革のための光となろう」
西日本区理事 深谷 聡 (名古屋クラブ)
"Let's illuminate the light of hope for future"
「未来に灯そう(ともそう)希望の光り」
六甲部部長 井出 浩 (神戸クラブ)
「YMCA とのさらなる協働を目指して」
芦屋クラブ会長 上野恭男
「楽しいクラブライフを！」

今月の聖句

「白髪の人の前では起立し、長老を尊び、あなたの神を畏れなさい。わたしは主である。」 <レビ記 19:32>
「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ／苦しみの日々が来ないうちに。／「年を重ねることに喜びはない」と／言う年齢にならないうちに。」 <コヘレトの言葉 12:1>

3月第1例会

と き: 2024年3月20日(水) 19:00~21:00
と ころ: ホテル竹園芦屋
司 会: 濱瀬真知子ワイズ

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1. 開会点鐘 | 上野恭男会長 |
| 2. クラブソング斉唱 | 一同 |
| 3. 聖句朗読 | 羽太英樹ワイズ |
| 4. ゲスト・ビジター紹介 | 司会 |
| 5. 食前感謝 | 柏原佳子ワイズ |
| 6. 会食・懇談 | |
| 7. ゲストスピーチ | 松田康之氏 |
| 「能登半島地震支援」 (元 YMCA 職員) | |
| 8. 第2例会議事録の承認 | 上野恭男会長 |
| 9. 事業委員の報告 | 各事業委員 |
| 10. YMCA報告 | 横山徹太郎担当主事 |
| 11. ニコニコ献金報告 | 坂東幸子ワイズ |
| 12. 誕生日祝い | 上野恭男会長 |
| 大澤二郎・柏原佳子・濱瀬真知子(各ワイズ) | |
| 13. 閉会点鐘 | 上野恭男会長 |

- | | |
|------------|-----------|
| 会 長 | 上野恭男 |
| 直前会長 | 大岩雅典 |
| 副 会 長 | 山口光一・福原吉孝 |
| 書 記 | 柏原佳子 |
| 会 計 | 桑野友子 |
| 監 事 | 島田 恒 |
| 担当主事 | 横山徹太郎 |
| 六甲部国際・交流主査 | 柏原佳子 |

3

Mar., 2024
321号

地域奉仕・環境事業を心にとめて！

芦屋クラブ会長 上野恭男



3月の強調月間はCS、地域奉仕・環境事業です。

川口恵地域奉仕・環境事業主任の事業主題は「輝かそう、私たちの未来を」です。

地域奉仕・環境事業の実施により、ワイズはもちろん、奉仕される人を含めて、皆が楽しく、輝かしい未来となるように、との意味をこめた標語です。

芦屋クラブの地域奉仕の核は、みどり福祉作業所です。芦屋浜に拠点を移して大きくなった作業所をこれからも芦屋クラブが出来る事を支援するように努めて参りましょう。

能登半島では仮設住宅の建設もまだわずか、阪神淡路大震災の時を想います。能登半島地震のためにYMCAからボランティアが支援に向かっています。芦屋クラブも献金活動を強化してまいりました。3月の例会では、ボランティアに参加された体験談をスピーチいただきますが、生でレポート頂くことを楽しみにいたしましょう。

地域奉仕活動として、久しぶりに4月7日(日)に開催される芦屋さくらまつりに参加して出店します。コロナで屋台での販売は行政からの規制が強まりますが、出店条件を守りながら頑張ります。YMCAへの奉仕はクラブ活動の原点です。さまざまな機会をとらえファンド作りにもチャレンジしてまいりましょう。

2月例会会集計

第1例会出席	例会出席率	BF切手
メンバー 11名	出席者 11名	累計 gm
メネット 名	メイクアップ 1名	
コメント	合計 12名	
ビジター 5名	在籍者 18名	ニコニコ
ゲスト 3名	(内広義会員1名)	20,131円
合計 19名	出席率 70.6%	累計 121,771円

2月第1例会報告

日時：2月21日(水) 19:00～21:00

場所：ホテル竹園芦屋 (敬称略)

参加者：上野恭男会長・柏原佳子・桑野友子・島田恒・堤清・中山豊美・濱瀬真知子・坂東幸子・福原吉孝・船橋知子・横山徹太郎担当主事

ゲスト：稲畑廣太郎氏(ゲストスピーカー)

大西謙氏(島田Y友人)・菅野敦子氏(桑野Y友人)

ビジター：浅野純一・小野勅紘・重村仁(西宮クラブ)

細身俊雄(神戸ポートクラブ)

上野会長の開会点鐘でスタートし、クラブソング斉唱、聖書朗読があり開始した。

今回、虚子記念博物館、稲畑廣太郎館長を迎え、高浜虚子と「俳句」のお話を伺う機会を得た。虚子は、愛媛県松山市で生まれ、司馬遼太郎の「坂の上の雲」に出てくる正岡子



規に、「俳句」を教わり、子規より虚子の名前を頂き、俳句誌として有名な「ホトトギス」を運用した明治、昭和の著名な俳人として活躍した方である。

京都大学に進学し、仙台を経由して東京根岸の子規庵で逗留しながら活躍し、俳句、散文、和歌などの文芸誌として「ホトトギス」を確立し、正岡子規や虚子とも交流のあった夏目漱石の「吾輩は猫である」、「坊ちゃん」の投稿を受け「ホトトギス」が大ベストセラーとなった話などがあつた。

虚子は77歳の喜寿には「喜寿艶」として発表した77句の句集を紹介して頂いた。何ともつやつぱい俳句である。子規の死を看取った後、虚子は、俳句より小説に興味をもち、俳句創作をやめ、小説の創作に没頭した時期があり、大変、驚いた。続いて「俳諧」と「俳句」の変遷について解説があつた。俳人には、松尾芭蕉、小林一茶等が有名であるが、よく知られた「俳句」が沢山ある。江戸時代には「俳諧」が盛んで、大勢の俳人が集まり、句のやり取りによって連歌として句会が行われ、最初の句を「発句」と言われていた。この一番最初の句を「発句」という呼び名から、次第に「俳句」となっていくた。

明治以降になり、「俳句」は、正岡子規の提唱により、5, 7, 5の語順と季語を入れた現在の形式が確立されたのである。色々「俳句」のとらえ方、考えにより模索され、季語にもこだわらない、5, 7, 5形式でもない「俳句」を発表する俳人もいたようである。大変興味深い点である。

虚子記念博物館には、虚子の生涯、展示資料があるが、夏目漱石の「吾輩はねこである」の直筆原稿、正岡子規の書簡等興味深い展示がなされている。是非、拝見したいと思う。最近、俳句を中心とした「プレバト」というTV番組(MBS 木曜夜 7時)がある。芸人さんや女優さんなどが面白い「俳句」を発表して人気番組となっている。

今回、西宮クラブ、神戸ポートクラブで俳句をたしなむ大勢の方々の参加もあり、面白く楽しい講演であつた。質疑応答でも稲畑館長より丁寧に回答して頂き感謝したい。

その後、芦屋例会の開催で、第二例会報告等があり、無事に閉会点鐘となった。

福原吉孝

箱釣やをつちやん一匹負けてんか(廣太郎)

昨晩は素敵なお案内、有難うございました

伝統俳句のことは良く知りませんが、それでも時代の移ろいに併せて、少しずつ変わりつつあるようですね

同じ「箱釣」でひいおじいさんの句は、

箱釣や頭の上の電気灯(虚子)

プレバトの影響もある?

席上お話のありました『喜寿艶』たまたま私も今年喜寿になりますので、何かの縁と思います

購入して一度伝統俳句の勉強?をしてみます

尤も私の場合は、📖大好きですので、色の代わりに🐟で『喜寿鱧』となりますか

おもろいな俳句の未来山笑ふ

怒られるかな 取敢えずお礼と返信まで

細見拝

芦屋クラブの2月例会にお招きいただき感謝いたします

講師は何と俳句界の重鎮で高浜虚子の曾孫で「ほととぎす」を主宰する稲畑廣太郎さんとのことで、早々にホテル竹園芦屋に到着しました。ほどなく稲畑廣太郎(本名はいなばた)さんが到着されて、サインまで頂戴し、その上私の拙句まで差し上げた次第でした。

ご縁は、今から10年以上前に偶然訪ねた愛媛県の松山市での正岡子規記念館で「子規顕彰記念俳句全国大会」を知り毎年投稿しておりますが、今迄一度も入選の栄誉を戴いていません。

当時の審査委員長は廣太郎さんの母上の稲畑汀子先生でしたが、一昨年他界されて廣太郎さんがその後を継がれておられます。

そういった中での今回の講演。講演の内容は大野勉さんの原稿に委ねるとして、私は俳句の特色をお話してみたいと思います。

俳句は誰でも自由に「花鳥風月」を表現できる日本が世界に誇れる文芸芸術だと思います。短歌(和歌)もそうですが、俳句は日本語を充分理解出来なければ表現出来ない芸術です。多くの外国人が日本の武芸や芸術に挑戦する中で、殆ど日本人でしか表現出来ない分野です。

それは「音節文字」(単語中心文字)である外国語に比べて、日本語独特の「音素文字」(50音の発音の組み合わせ)でしか表現出来ないからです。特に僅かな助詞(てにをは)にまで微妙な心情表現を可能にする「俳句」は素晴らしいものだと思います。現在ユネスコの無形文化財に申請中ですが、果たして世界に通じるかどうか? 貴重な講演をありがとうございました。

西宮クラブ 小野 勅紘(俳号:直行)

にわか俳句熱

☆大野ワイズはスピーチの内容を丁寧に報告下さいました

TOF月に ごちそういただき 感謝哉 弁子

☆柏原書記から参加いただいたゲスト・ビジターへ

感謝のお礼メールに添えて

優しさの 胸に染み入る 如月の会♪

留学生交流会

日時： 2月7日(水)18時～20時

場所： 芦屋市民センター203号室

参加者： 上野恭男会長・柏原佳子・桑野友子・島田恒・田辺征一・堤 清・中島かおり・濱瀬真知子・坂東幸子・福原吉孝・船橋知子・山口光一(各ワイズ)、横山徹太郎担当主事

ビクター： 大野勉氏(神戸ポートクラブ)

留学生： ミャンマー・中国・インド・ギニア(13名)

今年も留学生たちに、交流会を通して楽しい時間を過ごしてもらえよう、準備しました。ミャンマー・中国・インド・ギニアの学生たち、計13名が参加となりました。おいしい食事や日本のお菓子をいただきながら、各テーブルでお互いのことを話しました。そして、話したことをもとに、ワイズが同じテーブルの留学生ひとりひとりを皆に紹介しました。交流会は盛り上がり、とくに、みんなで歌を歌った時間は、笑顔がいっぱいでした。今年も、神戸ポートクラブの大野ワイズにギター演奏をお願いしました。感謝です。国籍や年齢・立場を越えて交流できることは、とても楽しく、意義があると感じます。



ニン イカリ ワイン さん (ミャンマー)

dinner パーティー、とても楽しかったです。行く前は、世代の断絶があるので、コミュニケーションがスムーズになるのかどうかを心配していました。ところが、皆さんが優しくあいさつしてくれたり、笑顔で迎えてくれたりしたので、心が暖かくなりました。皆さんから学んだ知識は、進学の参考にするのに役に立ち、視野も広がりました。最後に皆と一緒に美味しいお菓子を食べながら歌を歌ったことも、忘れられない思い出として残っています。もしまたチャンスがあったら、ぜひ参加したいと思っています。

葛 俊良 さん(中国)



先月の交流会では、日本人やミャンマー人などとコミュニケーションをとり、一緒に歌うことができ、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

担当主事横山徹太郎

【 2つの小窓 】

① ◆あと僅か(2月13日)であの《文豪》たちが愛した【山の上ホテル】《東京・千代田区》が消える。改築されいつかまた会える日まで……。◆1937年あの米国の建築家【ウィリアム・メレル・ヴォーリス】氏により設計・建築されたアールデコ様式の洋館であった。私は彼の大ファンで関西地方の作品は多く実地見学しているが、関東地方はほぼ【未見学】である。【戦後は連合国軍総司令部(GHQ)に接收されていたが54年に《ホテル》として開業されたという。全35室でレイアウトが同じ部屋はなくて、日本庭園付



のスウィートルームまで多種多様だった。と言われていた。◆昨年亡くなった直木賞作家・【伊集院静】氏(20年来の

常連客)も少し前まで泊まっていたと…。又あの【三島由紀夫】氏も《市ヶ谷自衛隊駐屯地での立てこもり自決事件》の前日まで、数日間宿泊していた事実も。◆また食通だった時代小説作家【池波正太郎】氏が愛したという《3分前に揚げた海老の天井をルームサービスで…。》が常だったとか。◆【HILL・TOP・HOTEL】と言う英名の通り高台にあるこの辺りには、連日スマホ片手にニュースで知った多くの人達の群が出来たそうだ…。又一つ《昭和》が消えた。近い将来の改築を夢見つつ、いつもの【ヴォーリス建築ファン】の1人として寂しい限り。

~~~~~

① ◆【スズメ軍団とメジロ軍団の出来事】。彼等は同じ《スズメ目》で毎年恒例の事ながらこの1ヶ月は実に微笑ましい風景を見せてくれる。冬場だけのサービスである渡り鳥たちに与える我が家の行事でもある【餌やり】だ。◆糖尿病かと間違えられるほどの甘党の【メジロ軍団】。そして年中、雑食の【スズメ軍団】とがある日の朝、各リーダーによる集合合図により【スズメ軍団】はお隣の【柿の木】に。

【メジロ軍団】は我が家の【アメリカハナミズキ】に各々【25羽位が群れをなしている】両者間は約5メートル。実に整然として両者の意気込みも見事な風景であった。その様はまるで関ヶ原の決戦のようにも見えた。(一寸オーバーかな。)約10分間に両者リーダー間で協議は円満に終了した模様。《恐らくメジロに与えた柑橘類の半分切りを仲良く食べる協議だったのだろう。》と勝手に想像する私だった。平和に解決出来て本当に良かった。はるか彼方の国々の事を、つい思ってしまう。◆◆追伸《今年に限り2月に入ってから急に登場しだした、新顔で孤独な、お洒落している【ジョウビタキ(同じスズメ目)】君にやっとな彼女が出来たみたい。オメデトウ！昨日から2羽で仲良くやって来る。カップル誕生。オメデトウ！実に微笑ましい風景だ。



【篠坂幸彦】

## 『 聖句 読み説き 』

神から与えられた生の一部として、老いと死は不可避なものです。老いを神の恵みとして受容し、死は神のみ手に入る門であると認識する時、今日を生かすことができます。

(日本キリスト教団出版局「信仰30問30答…人間の老いと死」より引用)

年を重ねるうちに、友の訃報が多くなってきます。中には「神さま、なぜ？」と絶句することも。聖書が語るように、青春の日々に神を知った者にとってはなおさらのことです。

羽太 英樹

## 2月第2例会議事・報告

と き: 2月7日(水)20時～

と ころ: 芦屋市民センター203号室

参加者: 上野会長、大岩、柏原、桑野、島田、田辺、堤、濱瀬、船橋、福原、阪東、山口、(各ワイズ)横山担当主事(敬称略)

### 議事・報告

- プリテン編集会議: 20時～ 桑野編集長(芦屋MLにて再度依頼)
- 第1例会
  - ・2月21日(水) 稲畑廣太郎氏「故郷を離れて」(虚子記念文学館館長)
  - ・3月20日(水・祝) 松田康之氏(YMCA元職員)「YMCA能登半島震災救援」
  - ・4月17日(水) スタティング・オーバーにて音楽例会
  - ・5月15日(水) 山本 一牧師「サンノゼの光と影」
- 2024年度クラブ役職の決定がなされた。(別紙)
- 今後の予定
  - ・毎月の第4月曜日 18時30分より  
2025年度西日本区大会実行委員会
  - ・3月16日(土)第2回評議会 15時～17時  
神戸YMCA
  - ・4月7日(日) 芦屋さくら祭り 単日開催、参加決定  
チヂミ 300円、ワイン 300円にて販売  
ワインはコストコで購入予定 福原・濱瀬ワイズ
  - ・6月8日(土) 西日本区大会 名古屋市公会堂、  
登録費の1/3をクラブから補助する。  
懇親会: 18時～ANAクラウンプラザホテル
- 1月会計報告 メールにて承認 桑野会計
- その他: 報告、協議事項
  - ・能登半島震災の街頭募金の提案があり、検討する
- YMCA報告 横山担当主事
  - ・留学生交流会が楽しく終了 書記 柏原佳子

編集後記: ◆まさに三寒四温、薄手のコートとダウンジャケットが交替が必要な毎日です。◆ウクライナもガザも能登半島地震も派閥裏金問題も膠着状態で気分の晴れない日々です。◆2月の稲畑廣太郎氏のスピーチは俳句に縁のある人・無い人共に楽しめました。ここで1句詠めたらな!と残念です。◆3月になると高校野球・プロ野球・ゴルフ、スポーツのシーズンが始まります。楽しい明るいニュースが待たれます。 桑野友子

## 3月例会スピーカープロフィール



松田康之氏

1999年神戸YMCA入職。余島野外活動センター所長、認定こども園園長、児童館館長などを歴任。2023年3月末をもって早期退職し、同年9月からデンマーク Fyn 島の Brenderup Højskole にて3ヶ月の学びを得る。

日本YMCA同盟の依頼を受け、2024年1月12日より金沢に入り、いしかわ総合スポーツセンターでの1.5次避難所の運営アドバイザーとして、およそ50日間活動。

## YMCA ニュース

**スペシャルキャンプ** 2月16日(金)夕方～18日(日)、能登半島地震を受けたスペシャルキャンプは、聖書に登場する「善きサマリア人」のように、いざというときに人の役に立つような人でありたいとの思いから開催されたキャンプです。幼児から小学校6年生まで9名が参加してくれました。普段キャンプに参加して下さっている皆さんだから、頼もしかったです。どれ



くらい歩けるだろうか? 2日目は神戸YMCA三宮会館から芦屋教会を目指します。自分たちの力を試してみます。手作りの大型マップを見ながら、スケールを確認しました。眠るの

は、宿泊専用じゃ無い場所です。1日目が神戸YMCA三宮会館、2日目は芦屋教会。寝床を作って、暖をとって、いつものキャンプとは違うけど、寝ることができます。Good Samaritanであるために、どんなことを思い、どんなことを口にし、どんなふうに行動すればいいのかわかる。利他的な行いは、人に力を与えます。その力の連鎖が、この社会を支えています。神戸YMCA三宮会館から芦屋教会まで、約11キロの道を歩いた子どもたちは、余裕の笑顔で到着しました。芦屋教会に着いて、マッシュポテトで腹ごしらえをしたらテントと食堂設営。あっという間に原っぱの教会がキャンプ場になりました。



寝袋にくるまって遊び、走り回って遊び、笑い合っただけで、焚き火を焚いては笑い。とはいってもやっぱりくたくたなので、美味しい豚汁を食べ後は、みんなすぐに寝ました。眠る前のお祈りでは、「いまこうしてローソクで火を灯して、焚き火で火を灯して、これまで気づかなかったことに気づいた。石川で、能登で、寂しく、なかなか楽しい生活を送れない人々がいるから、そのことを忘れず、ここにいてできることをしよう」というお話を聴きました。こどもたちは、楽しみながらの体験を通して、多くの気づきがあったキャンプでした。

担当主事 横山徹太郎